

令和6年度 南アルプス市立若草小学校 学校評価 自己評価書

南アルプス市立若草小学校
校長 時田 直人

1 学校評価について

1 学校評価の目的 …学校評価ガイドライン (H28 改訂版) より

- ①各学校が、自らの教育活動その他の学校運営について、目指すべき目標を設定し、その達成状況や達成に向けた取組の適切さ等について評価することにより、学校として組織的・継続的な改善を図ること。
- ②各学校が、自己評価及び保護者など学校関係者等による評価の実施とその結果の公表・説明により、適切に説明責任を果たすとともに、保護者、地域住民等から理解と参画を得て、学校・家庭・地域の連携協力による学校づくりを進めること。
- ③各学校の設置者等が、学校評価の結果に応じて、学校に対する支援や条件整備等の改善措置を講じることにより、一定水準の教育の質を保証し、その向上を図ること。

2 評価方法

(1) 実施期日 令和6月11月下旬

(2) 評価・アンケート項目

学校教育目標・目指す学校像・めざす児童像・めざす教職員像等を指針とし、以下の分類で項目を設定し、教職員による自己評価、児童・保護者に対するアンケートを実施した。

- ①教職員自己評価：「学校生活」「学習指導」「家庭学習」「生徒指導」「学校経営」「学校行事」「研究・研修」「施設・設備・安全管理」「家庭・地域との連携」
- ②児童アンケート：「学校生活」「学習指導」「家庭学習」「生徒指導」「携帯電話」
- ③保護者アンケート：「学校生活」「学習指導」「家庭学習」「生徒指導」「学校行事」「施設・設備・安全管理」「家庭・地域との連携」「携帯電話」

(3) 回答方法

Google Forms による Web 上での回答とした。

(4) 分析・考察に向けての評価基準

①各項目について、下表の4段階で評価・回答を得た。4と3の評価・回答を合わせて肯定的意見(プラス評価)、2と1の評価・回答を合わせて否定的意見(マイナス評価)としてとらえた。

4：そう思う	3：どちらかというと思う	…肯定的意見(プラス評価)
2：どちらかというと思わない	1：そう思わない	…否定的意見(マイナス評価)

②各項目の平均値(少数第1位まで)を算出し、下表のように設定したカッティングポイントを判定基準ととらえるなかで、分析・考察につなげた。

[カッティングポイント]

3. 0以上	… A(良好である)
2. 9～2. 5	… B(概ね良好ではあるが、工夫・改善の余地がある)
2. 4～2. 1	… C(工夫・改善が必要である)
2. 0以下	… D(根本的に工夫・改善を図る必要がある)

※上記(2)の評価・アンケート項目について、(4)の評価基準に照らし合わせながら、分析・考察をおこない評価結果とした。

2 自己評価結果（自己評価書）

1 本年度の学校教育目標、めざす学校・児童・教職員像について

【学校教育目標】

- ①かしこい子ども
- ②美しいものに感動する子ども
- ③思いやりのあるやさしい子ども
- ④たくましく生きぬく子ども

(1) めざす学校像

- ①児童にとって楽しく希望にあふれ充実した学校
- ②保護者にとって信頼できる学校
- ③教師にとって創意が生かされ働きがいのある学校
- ④地域にとって開かれた学校

(2) めざす教職員像

- ①使命感と情熱にあふれる教職員
- ②児童と真剣に向き合い、心を理解できる愛情あふれる教職員
- ③豊かな人間性と教養、専門的知識を兼ね備えた教職員
- ④保護者及び地域の期待に応え、信頼される教職員

(3) 児童の具体目標

- ①授業に集中する子ども（話を最後までしっかり聴くことのできる子ども）
- ②気持ちのこもったあいさつができる子ども
- ③一生懸命にそうじができる子ども
- ④体育や休み時間に元気に活動できる子ども

2 教職員自己評価、児童アンケート、保護者アンケートについて

自己評価・アンケートの各項目内容および項目数については、一昨年度、調整・精選し、焦点化・明確化を行い、小中一貫教育にかかわる評価の観点を追加して実施している。

3 評価と改善策

(1) 評価の全体的な概略

①職員による自己評価

- ・全12項目においてA判定であった。

本校の教職員が、学校教育目標やめざす学校像等（以下、学校教育目標等）を十分に意識して教育活動（職務）の遂行に努めていることが確認できた。

- ・評価結果によるポイントは昨年度より下がっているものの、肯定的回答率では6項目で100%、4項目で86%～97%という結果となり、概ね良好である。

本校では、教育課程に基づき、教職員一人一人が学校教育目標の達成に向け創意工夫して教育活動を行ってきた結果が自己評価の成果に反映されている。

- ・A判定の中で、やや評価が低い（3.1）項目がある。

⑦「学校経営」の小中一貫教育については、今年度から若草中学校区において学校運営協議会がスタートした。3校の取り組みについては、初年度ということで不明瞭な点があり改善の余地がある。3校の教職員の考えを集約し、方向性について再度確認していく必要がある。今年度の成果と課題から、学校と地域、家庭を含めた学校教育の在り方を研究していく。

②児童によるアンケート

- ・全4項目においてA判定であった。

いずれの項目も昨年度と同程度の評価となった。多くの児童が学校生活に対して前向きに望んでいる姿勢がうかがえる。

- ・A判定の中で、若干評価が低い(3.4)項目がある。

③「家で宿題や自主学習にしっかり取り組んでいるか」の項目については、昨年度に比べ0.1ポイント評価が上がったが、日々、継続的に教職員の連携を得る中で個別対応をより充実させ、授業改善に取り組んでいく必要がある。

③保護者によるアンケート

- ・全7項目においてA判定であった。

保護者の学校に対する期待は大きく、確かな教育活動の実施が求められていることがうかがえる。

- ・A判定の中で、やや評価が低い(3.0)項目がある。

③「家庭で学習する習慣が身についている」の項目については昨年度のA判定と同じ結果となった。今後も家庭の理解や家庭との連携・協力が必要不可欠である。校内研究等を通じて、継続的に家庭学習の習慣化促進についての理解を深めていく必要がある。

以上が学校評価の全体的な概略であるが、この結果については、教職員全体で真摯に受け止め、共通理解をもって改善に努め、来年度の教育活動に生かしていきたい。

なお、携帯電話の項目については、市で統一した内容での調査の為、全体的な評価の概略からは除外してある。

(2) 分類毎による項目の評価と改善策

I 学校生活について [対象：教職員・児童・保護者]

【考察】

- ・教職員の自己評価、児童・保護者のアンケートともにA判定であり、概ね良好な学校生活を送られている状況がうかがえる。

II 学習指導について [対象：教職員・児童・保護者]

【考察】

- ・教職員の自己評価、児童・保護者のアンケートともにA判定であり、教職員が教材研究を重ね、授業改善に取り組んできた成果が反映されている。今後も、不断の授業改善を怠らない。

III 家庭学習について [対象：教職員・児童・保護者]

【考察】

- ・「家庭学習」の項目では、昨年度同様にA判定となった。家庭学習強化週間「レベルアップ週間」等の取り組みの成果がみられる。一方、保護者アンケートではB判定であり、家庭での自主学習の取り組み状況については個人差が大きく、家庭学習のとらえ方には、保護者によっても違いがみられる。

【改善策】

- ・「家庭学習」については、家庭の協力も得ながら連携して学習習慣が身につけられるよう推進していく。特に、学校だより、部会、PTA 総会等で家庭学習の習慣化の有用性を示していく。また、家庭学習の推進に向け校内研究の柱にも位置付け、自主学習の習慣化を進め学力向上をめざしていく。

IV生徒指導について [対象：教職員・児童・保護者]**【考察】**

- ・教職員の自己評価、児童・保護者のアンケートともにA判定でありおおむね良好である。
- ・教職員は児童理解に努め、いじめや問題行動等の対処を適切に行っている状況がみられる。

【改善策】

- ・児童の様子についての見取りを行う中、全教職員が共通理解のもと、児童の困り感に寄り添った温かい支援を行う。学校での児童の様子を適時、家庭へ伝える等、学校と家庭の連携を今後も継続的に行い、同一歩調で児童の成長を支えていく。

V学校経営について [対象：教職員]**【考察】**

- ・教職員の自己評価の結果、いずれの項目においてもA判定であり、良好な学校経営を取り組んでいる状況がうかがえる。
- ・「特別支援教育」に関する項目が3.3と若干低い評価であった。

【改善策】

- ・特別支援教育については、突発的な対応を迫られる場面に対する校内支援体制に不十分な点がある。校内支援委員会やケース会議の実施、SCの有効な活用を行い、きめ細かい指導を行っていく。校内研究等を通じて特別支援教育についての理解を一層深め、個々の力量を上げるとともに、人的確保も視野に入れ特別支援教育を充実していく。

VI学校行事について [対象：教職員・保護者]**【考察】**

- ・教職員の自己評価、保護者アンケートともにA判定の評価であった。
- ・一年間を通して、児童が意欲をもって行事に取り組んでいる姿が見て取れる。創意工夫された教育活動を行うという校長の方針が浸透していることがうかがえる。

【改善策】

- ・今後も丁寧な説明と情報発信に努め、理解を得ながら教育活動を行う。

VII研究・研修について [対象：教職員]**【考察】**

- ・教職員による自己評価の結果、A判定の評価であった。校内研究等を土台として、研修の機会が設けられ、取り組んでいる状況がうかがえる。

【改善策】

- ・今後も教職員全体で共通理解を図りながら実践を積み重ねていく。

VIII施設・設備 安全管理について [対象：教職員・保護者]**【考察】**

- ・教職員の自己評価、保護者アンケートともにA判定の評価であった。
- ・仮設校舎での学校生活が1年経過し、旧校舎の課題であった施設・設備の整備不良が大き

く減り、学習環境が整ってきたことがうかがえる。

【改善策】

- ・仮設校舎の環境整備に当たっては、教育関係者・施工業者と密に連携して施設・設備の管理を行う。
- ・安心・安全な新校舎の完成に向け、教育関係者・施工業者と連携して効率的な工程会議に臨む。
- ・交通安全対策として、継続して「見守り隊」の協力を頂き、登下校の安全確保に努める。

IX家庭・地域との連携について [対象：教職員・保護者]

【考察】

- ・教職員の自己評価、保護者アンケートともにA判定であり、概ね良好である。
- ・年間を通じて学校安心メールによる保護者への情報発信を適切に行った。
- ・各種のお便りで、学校の教育活動や児童の様子についての情報を発信することで、開かれた学校づくりに取り組むことができた。

【改善策】

- ・地域や保護者の方からの相談及び要望に対応する場面を、情報共有・発信のチャンスととらえ、良好な関係づくりの一助とする。

携帯電話について [対象：児童・保護者]

【考察】

- ・所有率は、児童45.3%、保護者30%であった。
- ・家庭でのルール決めについては、児童83.4%、保護者96.0%という結果であった。
- ・家庭内でのルール決めの評価結果は、おおむね良好である。引き続き家庭内での共通理解が必要である。
- ・ネットやSNSを利用する際の注意点については、家庭を巻き込んだネット安全教室の開催等、学校や学年で足並みをそろえて安全指導を行う必要がある。
→ネットいじめ等、ネットによるトラブルを未然に防止するために、児童向けのネットモラルに関する安全教室を年間行事に位置付け、継続して実施していく必要がある。